

NEWS

国立新美術館 ニュース

1
2014
— 春号

www.nact.jp

イメージの力 — 国立民族学博物館 コレクションにさぐる

展覧会担当研究員インタビュー

中村一美展

美しい色彩を持つ
『存在の鳥』を描く

神像つきの椅子「カワ・トゥギトツ」 国立民族学博物館蔵

新

THE
NATIONAL
ART CENTER,
TOKYO

国立新美術館



EXHIBITION

展覧会

日本最大級の展示スペースを生かし
多彩な展覧会を開催しています

「イメージの力—国立民族学博物館コレクションにさぐる」。博物館の収蔵品を、アートとしての側面に着目して美術館で展示するという試みです。「イメージの力」というタイトルに込められた想いについて、国立新美術館主任研究員・本展担当者の長屋光枝に聞きました。

—なぜこのような展覧会を企画したのですか？

イメージは、何かを象徴する、物語をあらわすというように言葉との結びつきが強く、言葉よりもあいまいなものとして、

低く位置づけられる傾向があります。私は抽象絵画が専門で、色やかたちが見る人に与える効果に関心があり、イメージそのものが持つ、言葉に依存しない独自のたらしきを伝えたいとずっと考えていました。

そこで今回は、いつ、どこで、何のために作られたかという言葉による説明から離れ、「背の高いもの」「光るもの」といった造形的傾向に注目して展示することにしました。そうすることで、時代や地域を超えた普遍的な「イメージの力」に迫ることができるのではないかと考えたのです。

研究員インタビュー

「イメージの力」をさぐる

「イメージの力—国立民族学博物館コレクションにさぐる」展示室にて



——イメージと言葉の大きな違いとは？

センテンスのつながりである言葉は、内容を段階的に理解させますが、一方イメージは、直観的に内容を伝えることができます。それに、細部まで克明に説明する言葉と違い、イメージには受け手が自由に解釈できる余白がありますね。この余白に人々の思いが込められることによって、「イメージの力」は大きくなっていくのではないかと思います。

——イメージがドンと飛び込んでくるポスターやチラシも「カワイイ！」と評判です。

そうですね(笑)。「カワイイ」と感じるのは、ある種、キャラクター化して受け止めているんですね。今の日本の社会は、あらゆるものをキャラクター化しますよね。老若男女、キャラが大好き。面白い現象だなと思います。

——展覧会を見るうえでのポイントは？

自分を主体にして、自由に見ていただきたいですね。今回は解説も少なくしているので「これはこういうイメージなのでは」など自由に感じて頂ければと思います。私も博物館の収蔵庫に何度も足を運び調査していくうちに、普段馴染みのないイメージにも感情移入するようになりました。イメージと直に向き合えるようになったというか、「イメージの力」を感じる感受性は、ものを見れば見るほど養われていくのだと感じました。

CURATORS' VOICE

展覧会担当者3人に、今回の約600点の出品作の中で、好きな「イメージ」は何かを聞いてみました。



山田

長屋

日比野

長屋光枝 「トコベイ人形」ですね。可愛くて、不気味。単純な造形ですが、色々なことを感じさせます。あとは、羽やビーズといった綺麗なものはやはり好きですね。山田由佳子 ガーナの棺桶は面白いですね。ライオンや飛行機などいろいろな形があって驚きました。オーストラリアの樹皮画も好きです。

日比野民蓉 私は影絵人形「ワヤン・クリット」です。使う時はシルエットしか浮かび上がらないはずなのに、彩色や文様が細かくてとても綺麗ですよ。

イメージの力

—国立民族学博物館
コレクションにさぐる



会期：2014年2月19日(水)－6月9日(月)

会場：国立新美術館 企画展示室2E

EDUCATION

教育普及

美術に親しむワークショップや講演会の開催、鑑賞ガイドブックの配布などを行っています

アートっておもしろい！ 国立新美術館の 教育普及プログラム

美術館をもっと楽しむ方法を、ご存知ですか。新しい美術の動向を紹介する国立新美術館ならではの、教育普及の2つのプログラムを紹介します。

ひとつは、美術のみならず、身体表現やデザインなど幅広い分野で活躍するアーティストが講師をつとめる、アーティスト・ワークショップ。アーティストと触れ合いながら、実際に手や身体を動かしてアートを体験します。子どもから大人まで幅広い世代に向けて、年に6回程度開催しています。

もうひとつは、現代美術の展覧会を中心



に作成している鑑賞ガイドブック。『アートのとびら』『ちいさなアーティスト・ファイル』などを展示室で無料配布し、皆さんの鑑賞をサポートします。作品の見方がわからないという方はもちろん、どんなアートも楽しく鑑賞できる方も、ガイドを手に鑑賞すると、新しい発見があるかもしれません。

たくさんの人にアートや美術館に親んでもらうことを目的とした、教育普及プログラム。開催情報は随時、国立新美術館ホームページに掲載されます。プログラムをとおして楽しい美術館でのひとときを過ごしてみませんか。



国立新美術館には 2つの図書室があります！

別館の書架にご注目

昨年リニューアルしたアトライブラリー別館閲覧室（別館1階）では、主に1945年以前刊行の図書やカタログに加え、書架ごとにテーマで分類された資料があります。今回は、その内3つをご紹介します。1つ目は2008年から2013年にかけて、これまで5回開催している「アーティスト・ファイル」展出品作家40名の関連資料です。同展以降の活動にも注目し、出品作家協力の下、継続して資料を集めています。2つ目は1968年から2000年にかけて、東京の神田・日本橋室町界隈を中心に複数の画廊を経営し、当時の作家たちに実験的な表現の場を提供していた故・山岸信郎氏の旧蔵資料です。3つ目は戦後日本を代表する美術批評家である故・針生一郎氏の旧蔵資料です。テーマごとに書架に並べられた本の背を眺めることで、日本の現代美術の多面性を感じ取ることができるのではないのでしょうか。

展覧会特集コーナー

アトライブラリー（美術館3階）では、開催中の展覧会に関連する資料の特集コーナーを設けています。4月から6月にかけては、「イメージの力」展、「中村一美展」、「バレエ・リュス」展に関連する資料をご紹介します。



別館閲覧室「アーティスト・ファイル」展資料の書架

PICK UP ピックアップ

中村一美展

会期：2014年3月19日(水)ー5月19日(月)

会場：企画展示室1E 主催：国立新美術館



「美しい色彩を持った「存在の鳥」は、上に向かって飛ぶだけではなく、下に向かって飛ぶ。それはあらゆる良きものと悪きものを象徴し、相反するできごとと同時に実現するものとしてとらえている。それは人間という存在も同じ」と近年発表した絵画「存在の鳥」連作について語る中村一美。初期から最新作まで約150点の作品を通し、中村一美がたどり着いた絵画実践の全貌をぜひご覧下さい。

SCHEDULE スケジュール



レオン・バクスト「青神」の衣装 ((青神)より)1912年頃
オーストラリア国立美術館 Léon BAKST, *Tunic from costume for the Blue God, from the Ballets Russes' production of Le Dieu bleu (The Blue God)*, c. 1912, National Gallery of Australia, Canberra

魅惑のコスチューム：バレエ・リュス展

会期：2014年6月18日(水)ー9月1日(月)

主催：国立新美術館、TBS、オーストラリア国立美術館、読売新聞社
会場：企画展示室1E

バレエ・リュス(ロシア・バレエ団)は、20世紀初頭に一世を風靡した伝説のバレエ団です。ピカソやマティスら前衛作家も参加した革新的な舞台は、今日の芸術の重要な源泉の一つとなっています。当時の華やかさを伝える約140点の衣装を中心に、その魅力を国内最大規模で紹介します。

オルセー美術館展 印象派の誕生 —描くことの自由—

会期：2014年7月9日(水)ー10月20日(月)

主催：国立新美術館、オルセー美術館、読売新聞社、日本テレビ放送網
会場：企画展示室2E

本展は、パリ・オルセー美術館所蔵の名画84点によって、印象派が誕生した19世紀後半のフランス絵画の動向を紹介するものです。マネ、印象派のモネやドガ、レアリスムのミレーやアカデミズムのカバネルなど、時代を代表する画家たちの傑作が出品されます。

※本画像は著作権使用許諾の条件下、現在表示できません。

クロード・モネ〈草上の昼食〉1865-66年 オルセー美術館蔵 ©Musée d'Orsay, Dist. RMN-Grand Palais / Patrice Schmidt / distributed by AMF

公
募
展

公募団体等の活動

「日本の書展」 東京展

全国書美術振興会は文化庁認可の財団法人として昭和49年に設立し、平成24年からは内閣府認定の公益財団法人として活動しています。書美術の本質を究明するとともに、展覧会等により書美術の振興を図り、わが国の芸術文化の発展に寄与することを目的としています。その主たる事業の「日本の書展」は日本

の書道界を代表する書家が会派を超えて一堂に集まり、力作を展示するもので、昨年の第41回展では関西、中部、東京、九州展での総展示数は4000点近くに上っています。その後も主要作品約100点が全国約10会場を巡回し、地元有力書家の作品と一緒に展示しています。今年度は42回展を迎え、東京展には約1500点余りの作品と、書を志す者にとっての基本である臨書に限る公募展「公募臨書」の入選作約500点を展示いたします。

「日本の書展」は海外でもこれまで70カ所以上で開催し、国際文化交流の実績を挙げています。昨年から今年にかけて、日本スペイン交流400周年を記念してスペインで開催中です。

本会は日本の文化を支える書をもっと普及させ、書道界の発展に寄与するために多様な活動をしています。



第41回展（平成25年）会場風景

レストラン&カフェ 4店舗 「イメージの力」展特別メニュー販売

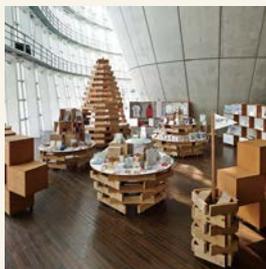
館内4店舗で、「イメージの力」展にちなんだ特別メニューを販売します。3階「ブラスリー ポール・ボキューズ ミュゼ」では、ホワイトアスパラガスやイチゴなど旬の食材で作った春の「イメージ」をご用意します。カフェ3店舗でも、限定ドリンクやデザートが登場！是非お立ち寄りください。



3階「ブラスリー ポール・ボキューズ ミュゼ」の「莓と軽いヴァシュラン カルディナル風」

2014年2月19日、1階ロビーにも 新たにショップスペースをオープン。

国立新美術館B1階のミュージアムショップ「スーベニアフロムトーキョー」が、このたび新しく1階にショップをオープンしました。佐藤可士和氏による新しいグラフィックを用いたオリジナルグッズをはじめ、国立新美術館ならではのおみやげをご用意しています。変化し続ける「スーベニアフロムトーキョー」に、ぜひお越しください。



1階ミュージアムショップ

当館の運営に多大なるご協力を賜りました、堤清二先生（辻井喬先生・セゾン文化財団理事長）、濱野保樹先生（東京工科大学教授）が逝去されました。堤先生におかれては国立新美術館顧問として、当館の運営に関する貴重なご意見を賜り、また濱野先生は当館の展覧会の企画にご尽力を賜りました。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げますとともに、深く感謝の意を表する次第です。

国立新美術館長・青木保